

国際日本学インスティテュート

「学際」と「国際」——学問領域の枠を超え、国境を超え、世界の中の日本を視る

国際日本学インスティテュートは、哲学・日本文学・英文学・史学・地理学の5専攻が共同で開設する、日本研究に特化した教育研究プログラムです。思想・芸術・文学・語学・歴史・民俗・生活文化・地理・環境などを切り口に、日本について深く探究することを目指します。また、一言で「日本」といっても、そこには多様な側面が存在しています。例えば、沖縄からアイヌ民族、そして在日外国人とともに作り上げてきた日本文化や、これまで必ずしも学術的な対象として捉えられてこなかったサブカルチャーなど、日本研究の領域には広がりがあります。そのため、国際日本学インスティテュートでは「学際性」と「国際性」を重視して研究を進めます。一つの学問領域を研究しているだけでは得られない知見を、専攻横断的なカリキュラムを通じて獲得することができます。また、世界各国の留学生が集まる場として、海外からの視点や比較の視点による研究も実現することができます。多様な日本を、多様な背景と関心を持った仲間が学び合う、新たな知的探究の場がここにはあります。

<p>アドミッション・ポリシー (学生受け入れ方針)</p> <p>日本研究は従来、さまざまな専門分野に分かれている。本インスティテュートは、従来の分野に収まりきらないテーマを持っている者や、広い視野で日本を研究したいと願っている学生や社会人や外国人留学生にとり、最適な専攻である。一般入試のほかに社会人入試を設けており、さらに外国人入試では多くの留学生を受け入れている。学生には、日本学研究への強い意欲はもとより、学術論文の執筆に必要な思考力、読解力、論理的表現力、そして研究を進める上で必要な語学力が求められる。</p>	<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)</p> <p>指導教授が指導する演習では、通常の授業のほかに論文指導を行っている。全員参加の国際日本学入門や合同演習では、日本文化のさまざまな側面をゲスト講師から学び、さらに互いの論文テーマの中間発表や意見交換を行っている。英語・日本語での論文執筆の訓練を行う授業もある。独自の基幹科目と多様な共有科目があり、他専攻の授業で単位を取得することも可能である。このように選択の自由のもとで幅広い知識を得ながら、演習では高度な専門的論文を執筆できるようにカリキュラムが組まれ、実施されている。</p>	<p>ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)</p> <p>修士の学位授与にあたっては、ほかの専攻とは異なり、幅広い分野を取り込んだ日本学の論文を執筆することを推奨している。博士の学位授与に当たっては、より専門的な論文執筆を求めているが、従来顧みられなかった大衆文化や異文化など多様な視点や個性的なアプローチ、挑戦的な方法を推奨している。博士後期課程の学生は国際日本学研究所の学術研究員となり、研究成果の発表、学術会合の参加などの機会が提供され、研究者としての強い意欲が求められる。</p>
---	--	---

専任教員と主な担当科目 (2017年度) ※年度により授業を持たない場合があります。

<p>安孫子 信 専任教授 哲学専攻</p> <p>専攻：思想史 研究テーマ：ヨーロッパと近代日本 担当科目：国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ、日本の思想・西欧の思想Ⅰ/Ⅱ</p>	<p>濱中 春 専任教授 哲学専攻</p> <p>専攻：ドイツ文学、表象文化論 研究テーマ：近現代の表象文化 担当科目：国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ</p>	<p>星野 勉 専任教授 哲学専攻</p> <p>専攻：哲学・倫理学 研究テーマ：近現代日本思想、比較思想、比較文化論 担当科目：国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ</p>
<p>尾谷 昌則 専任教授 日本文学専攻</p> <p>専攻：言語学 研究テーマ：若者言葉、意味論、文法論、認知言語学 担当科目：国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ</p>	<p>小秋元 段 専任教授 日本文学専攻</p> <p>専攻：日本文学 研究テーマ：日本中世文学、中世・近世初期出版文化、和漢比較文学 担当科目：国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ</p>	<p>小林 ふみ子 専任教授 日本文学専攻</p> <p>専攻：日本文学 研究テーマ：浮世絵も含む江戸の出版文化 担当科目：国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ、江戸の文芸と文化Ⅰ/Ⅱ</p>
<p>坂本 勝 専任教授 日本文学専攻</p> <p>専攻：上代文学 研究テーマ：古事記・万葉集を中心とする上代文学研究 担当科目：国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ、神話と歌Ⅰ/Ⅱ</p>	<p>島田 雅彦 専任教授 日本文学専攻</p> <p>専攻：創作、小説論、文学史、戦後史、サブカルチャー 研究テーマ：日本学、比較文化学、サブカルチャー諸ジャンル 担当科目：国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ</p>	<p>スティーヴン・ネルソン 専任教授 日本文学専攻</p> <p>専攻：日本音楽史学 研究テーマ：音楽・古典芸能の歴史、古典文学作品と音楽 担当科目：国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ、国際日本学論文作成実習(英語)Ⅰ/Ⅱ</p>
<p>間宮 厚司 専任教授 日本文学専攻</p> <p>専攻：日本語学 研究テーマ：日本古典語研究(万葉集・おもしろさうし等の言語学的研究)、日本語の変遷 担当科目：国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ、日本語の歴史と現在Ⅰ/Ⅱ</p>	<p>川崎 貴子 専任教授 英文学専攻</p> <p>専攻：言語学 研究テーマ：言語習得・音韻論、心理言語学、学習者に注目した第二言語教育 担当科目：国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ</p>	<p>椎名 美智 専任教授 英文学専攻</p> <p>専攻：言語学 研究テーマ：社会言語学、語用論、文法論、談話分析 担当科目：国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ</p>
<p>小口 雅史 専任教授 史学専攻</p> <p>専攻：古代日中比較文化論、日本古代中世北方史 研究テーマ：日中比較律令法史・土地法史、蝦夷論、日本古代社会経済史 担当科目：国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ、東アジアの律令文化Ⅰ・Ⅱ/Ⅰ・Ⅱ</p>	<p>謝 荔 専任教授 史学専攻</p> <p>専攻：中国漢族社会の文化人類学的研究 研究テーマ：中国・日本社会の生活文化の比較 担当科目：国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ</p>	<p>水野 和夫 専任教授 史学専攻</p> <p>専攻：マクロ経済学、現代日本経済論、資本主義経済史 研究テーマ：デフレ・ゼロ金利下における日本経済の課題、資本主義経済の課題と将来展望 担当科目：国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ</p>
<p>吉成 直樹 専任教授 史学専攻</p> <p>専攻：地理学、民族学・民俗学 研究テーマ：沖縄を中心とする東アジアの社会と文化 担当科目：国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ、沖縄学入門Ⅰ/Ⅱ</p>	<p>伊藤 達也 専任教授 地理学専攻</p> <p>専攻：地理学、地域社会・地域経済研究 研究テーマ：日本から東アジアにかけての水資源問題、環境問題 担当科目：国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ、日本の環境論Ⅰ/Ⅱ、国際日本学合同演習</p>	<p>スティーヴン・ネルソン 専任教授 日本文学専攻</p> <p>専攻：日本音楽史学 研究テーマ：音楽・古典芸能の歴史、古典文学作品と音楽 担当科目：国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ、国際日本学論文作成実習(英語)Ⅰ/Ⅱ</p>
<p>米家 志乃布 専任教授 地理学専攻</p> <p>専攻：日本の歴史地理学、日本とロシアの地図史 研究テーマ：画像史料を用いた日本研究、日本における歴史の可視化と保存 担当科目：国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ、地図の文化誌Ⅰ/Ⅱ</p>	<p>小原 文明 専任准教授 地理学専攻</p> <p>専攻：地理学、都市に関わる社会的・経済的な事象 研究テーマ：日本における都市の形成・変容および開発に関する研究 担当科目：※今年度は、特定の科目を担当しません</p>	<p>※国際日本学インスティテュートの学生は、人文科学研究科哲学、日本文学、英文学、史学、地理学のいずれかの専攻へ所属することとなります。</p>

Graduate School of Humanities
Institute of International Japanese Studies

募集人員： 修士課程14名程度／博士後期課程5名程度
開講形態： 昼夜開講
キャンパス： 市ヶ谷

研究室紹介

スティーヴン・ネルソン 教授



東アジアとの関係を踏まえた、日本の音楽・古典芸能に関する歴史的研究

日本の音楽や古典芸能を、東アジアという枠組みの中で捉え、その歴史的な変遷を考察

日本の音楽文化は、海外(主にアジア大陸)からの影響を受ける時期と、それを消化し日本的なものに変容させていく時期との推移の中で形成されてきました。こうした歴史的経緯を踏まえて、音楽史学的方法論的可能性を考えながら研究しています。狭義の音楽文献史料(楽譜や楽書)に加え、一般的な文献史料(日記などの記録)や文学作品の中の音楽描写場面にも着目し、音楽史を探る材料として読み解きます。楽器などの物的史料も、また日本に豊富に現存する音楽・古典芸能の生きた演奏伝承も研究対象とします。文化における音楽の不変性と可変性を探りながら、「日本的なもの」を明らかにしていきます。

STUDENT'S VOICE



博士後期課程 在学中
黄 逸雋

自分の興味をそのまま研究テーマにできるのが魅力の一つ。サブカルチャーも研究テーマになる

専攻の魅力

なんといっても研究テーマの幅広さが魅力です。語学、文学、芸術、宗教、社会、環境、サブカルチャーなどなど、驚かされるほどです。色々な国の出身の人々が、様々な視点から「日本」に焦点を当てているからこそ、このように多種多様な研究も可能になったのでしょう。進学前の大学院案内にあった「自分が興味を持つ分野を、自由に研究できる」という一節は、今でも強く印象に残っています。

私の研究

私が今研究している演歌は、自分の趣味でもあります。演歌に関心を持っている一方、それにもみられる不思議なところにも気付き始め、演歌を巡る謎を自分なりに明かしてみたいと思うようになりました。演歌は専攻分野において比較的に近い演歌を取り上げたかった私にとって、多様な研究が行われている国際日本学インスティテュートは非常に魅力的でした。

研究テーマ	日本における現代歌謡文化 — 演歌を中心に —
-------	-------------------------

設置科目 (2017年度) ※開講科目は年度により異なります。()内は単位数

<p>【修士課程】</p> <p>【必修科目・国際日本学演習】 国際日本学演習Ⅰ/Ⅱ(各2) 国際日本学合同演習(2)</p>	<p>日本文学・国際日本学論文作成基礎実習(2) 近代の文芸批評Ⅰ/Ⅱ(各2) 神話と歌Ⅰ/Ⅱ(各2) 平安時代の物語Ⅰ/Ⅱ(各2) 書誌学と文献学Ⅰ/Ⅱ(各2) 能と楽劇Ⅰ/Ⅱ(各2) 江戸の文芸と文化Ⅰ/Ⅱ(各2) 世界の日本論と日本学Ⅰ/Ⅱ(各2) アジアと日本Ⅰ/Ⅱ(各2) 国際日本学論文作成実習(英語)Ⅰ/Ⅱ(各2) 日本語論文作成実習Ⅰ/Ⅱ(各2) 日本語論文作成基礎AⅠ~Ⅳ(各1) 日本語論文作成基礎BⅠ~Ⅳ(各1) 日本語の性格Ⅰ/Ⅱ(各2) 伝統文化と民衆世界Ⅰ/Ⅱ(各2) 日本の思想・西欧の思想Ⅰ/Ⅱ(各2) 日本の思想Ⅰ/Ⅱ(各2) 史料から読む琉球とアジアⅠ/Ⅱ(各2) 戦後沖縄と対外関係Ⅰ/Ⅱ(各2) 仏教思想と仏教美術Ⅰ/Ⅱ(各2) 越境時代の日本文化Ⅰ/Ⅱ(各2) 文学・言語・環境(2) モノとワザの文化史(2) サブカルチャー論Ⅰ/Ⅱ(各2)</p>	<p>天皇制と地方支配—王権の諸相—Ⅰ/Ⅱ(各2) 日本の歴史と宗教(2) 古文書から読む江戸社会・入門編Ⅰ/Ⅱ(各2) 江戸の地方文化Ⅰ/Ⅱ(各2) 日本文化と西洋文化Ⅰ/Ⅱ(各2) 日本の近代と国際社会Ⅰ/Ⅱ(各2) 沖縄学入門Ⅰ/Ⅱ(各2) アーカイブズ学Ⅰ/Ⅱ(各2) 文書館管理研究Ⅰ/Ⅱ(各2) 記録史料学研究Ⅰ/Ⅱ(各2) 記録史料学演習Ⅰ/Ⅱ(各2)</p>	<p>・平安・鎌倉時代における箏の演奏伝承に関する研究 ・現代女性文学における「ホーム」—アメリカ、日本、ロシアの1980年代以降の作品を中心に— ・中日古典における男性小説考 ・スペクタクル時代劇が切り拓いた想像力—ポップカルチャーの洗礼を受けた日本の演劇シーン— ・多国籍企業の「断り」におけるストラテジー —ポライトネス理論の視点から— 日本の産業風土Ⅰ/Ⅱ(各2) ・1990年代以降の日本と中国にみられる新しい結婚式の形 ・秩父夜祭に関する研究 —伝統の保持と観光に伴う変化を中心に— ・日本のコミュニティにおける獅子舞伝承の今日的意義 ・都市の中の水辺空間と住民の付き合い方 —重慶市璧山区暨南河を例に—</p>
<p>【国際日本学基幹科目】 世界の日本論と日本学Ⅰ/Ⅱ(各2) アジアと日本Ⅰ/Ⅱ(各2) 国際日本学論文作成実習(英語)Ⅰ/Ⅱ(各2) 日本語論文作成実習Ⅰ/Ⅱ(各2) 日本語論文作成基礎AⅠ~Ⅳ(各1) 日本語論文作成基礎BⅠ~Ⅳ(各1) 日本語の性格Ⅰ/Ⅱ(各2) 伝統文化と民衆世界Ⅰ/Ⅱ(各2) 日本の思想・西欧の思想Ⅰ/Ⅱ(各2) 日本の思想Ⅰ/Ⅱ(各2) 史料から読む琉球とアジアⅠ/Ⅱ(各2) 戦後沖縄と対外関係Ⅰ/Ⅱ(各2) 仏教思想と仏教美術Ⅰ/Ⅱ(各2) 越境時代の日本文化Ⅰ/Ⅱ(各2) 文学・言語・環境(2) モノとワザの文化史(2) サブカルチャー論Ⅰ/Ⅱ(各2)</p>	<p>【国際日本学関連科目・風土と民族】 日本の環境論Ⅰ/Ⅱ(各2) 日本の産業風土Ⅰ/Ⅱ(各2) 地図の文化誌Ⅰ/Ⅱ(各2)</p>	<p>【博士後期課程】 国際日本学研究Ⅰ/Ⅱ(各2) 国際日本学特殊講義AⅠ・JⅠ・KⅠ(各2) 国際日本学特殊講義B~H、LⅠ/Ⅱ(各2)</p>	<p>【国際日本学関連科目・歴史と思想】 西欧の思想Ⅰ/Ⅱ(各2) 東北アジアの文化伝播Ⅰ・Ⅱ/Ⅰ・Ⅱ/Ⅲ・Ⅳ(各2) 東アジアの律令文化Ⅰ・Ⅱ/Ⅰ・Ⅱ(各2) 王権の政治文化Ⅰ/Ⅱ(各2)</p>

修士生の研究テーマ